

静岡市立清水浜田小学校

静岡県埋蔵文化財センター

出前授業レポート

令和4年6月30日(木)

「本物にふれることができ、体験もでき、子どもたちの興味・関心が深まりました。」

静岡市立清水浜田小学校の6年生25人が、社会科の授業で学んだ大昔（縄文・弥生・古墳時代）の暮らしを体験することで、日本の歴史について理解を深めることを目的に、丹後先生が出前授業を計画し、土器の分類・石器の試し切り・火起こしの3つの体験活動を行いました。

土器の分類体験

はじめに、完成品の3つの土器の時代を考えました。

「時代によって土器の厚さが変わっておもしろかった。」「めったに触れることができない土器に触れられて良かった。」「時代によって違いがあることがわかった。」



次に、箱の中の土器片を、縄文土器・弥生土器・須恵器の3つに分けました。答え合わせの時に、弥生土器と須恵器の見極めがわからなくて困っている班もありました。その後、縄文土器が他の2つの土器と材質が違う理由を聞き、納得していました。また、弥生土器と須恵器は作り方の違いで分けることができることを知りました。



石器の試し切り体験



「石なのにすごく切れるなあーと思った。」「昔は包丁がなかったから、石の形を自分たちで変えてすごい。」「石でもいろいろな使い途があることがわかった。」

金属がない時代に木を切り倒したり、地面に穴を掘ったりするとき、何を使うか考えました。石を利用することの意義を知り、石を加工することの大切さを学びました。次に、黒曜石で持ってきた野菜を切りました。切れ味の良さに驚いていました。

火起こし体験

梅雨明けのとても暑い日で、子どもたちが火起こしをするには少し不向きな天候でしたが、どの子も一生懸命舞きり法で火を起こそうと頑張っていました。中には、もみぎり法や弓ぎり法で頑張っている子も数人いて、火起こしの大変さを実感していました。

「テレビでは見ていたけど、自分でやると難しかった。」「昔は苦勞して火を起こしていたことがわかった。」「けっこう大変だった。」



「もみぎり法はきつい！」



蛸谷先生の感想

「本物にふれることができ、体験もでき、子どもたちの興味・関心が深まりました。説明もとても分かりやすく、体験活動の時間も十分でした。火起こしは全員できてよかったです。土器や石器については、教科書では学ばないことも教えてください、子どもたちの反応もよかったです。授業後の昼休みに、クローズドブックで土器や石器のことを調べる子がいました。本物にふれたときの子どもたちの様子・表情が印象的でした。」

蛸谷先生のご要望

「次は、簡単な発掘体験をやりたいです。」